

2 学級開き（担任第一声）から一週間の指導

1 学級開きと最初の一週間の取組の意義

新しい学年を迎えた児童は、新年度に向けた新たな意欲や期待とともに、新しい学年、学級、先生、仲間という環境の変化に対しての不安を抱えながら教室にいます。まずは、児童一人一人がもっている「今年こそ（今年も）がんばって自分を大きく成長させたい。」「いろんなことに挑戦したい。」という願いをしっかりと受け止めることが必要です。その上に立って、「新しい学級でやっていけるだろうか。」という不安を取り除き、新しい学年への希望や期待を膨らませ、学習意欲や活動意欲を高めるのが学級開きの役割です。

そのために、学級担任は「担任第一声」で担任としての願いや思い、それを具現するために大切にしていけることを全ての児童に分かりやすく伝えなければなりません。

次に、学級開きから約一週間のうちに、担任が「一年間大切にしていけること」を学級の具体的なルールとして徹底していきます。新しい学級になって一週間という期間は、新しいことにもチャレンジしていこうという児童の意欲が一番高いときです。その期間を逃さず、できていること、できるように努力していることを認め励ますことを大切に、学級のルールを徹底します。

これらの取組を通して、児童の「この先生と、この仲間と一年間がんばっていこう。」という意欲を高め、楽しく充実した一年間になりそうだという明るい見通しをもたせます。

2 具体的な方途

(1) 担任第一声

①何をこそ伝えるか

- ・学校の教育目標、児童の発達の段階や実態を踏まえ、目指す姿を明確にします。
- ・明確にした目指す姿と担任の教育観に基づいて、「担任第一声」の内容を考えていきます。

②どのように伝えるか

- ・「担任第一声」の伝え方を工夫します。（担任の個性が表れる場面です。）
- ・自分の体験から実感したことなどを通して、願いや思い、大切にしたいことを分かりやすく語ります。そのためには、事前に原稿に起こしてみることも必要です。
（例えば、「どんなことにも精一杯取り組める子（学級）になってほしい。」「人の悪口を言ったり、たたいたり蹴ったりするなど、人の心や体を傷つける行為は許さない。」など）
- ・内容が想起できるような具体物を示して語ると児童は共感して聞くことができます。また、担任の第一声を一年間掲示することで、担任の先生も児童も初心にかえることができます。

③具体的な姿を語る

- ・内容については、抽象的な言葉にとどまらないようにします。
- ・例えば、「仲間を大切にすると」とはどういうことなのかを、具体的な児童の願う姿で示します。
（※一週間の構想例を参照）

④自己開示する

- ・「どんな先生であるのか」は、児童や保護者にとって最も関心があり、出会いの印象は後の信頼関係に大きく影響します。

(2) 学級開きからの一週間

①徹底すべきは何か

- ・学級開きからの一週間では、どの学年においても「話の聞き方」「授業開始と終了のあいさつ」「時間を守ること」「整理整頓」など、基本的な生活習慣や学習習慣に重点を置いて指導します。
- ・一度話してすぐに身に付くことばかりではありません。細かなステップを描くとともに、教師が率先して手本を示めすなどして、教えるべきことはきちんと教え、できるまで粘り強く指導します。できないことを注意するだけでなく、できたことを価値付けることが大切です。また、全員でできたことを学級の財産として位置付けていくことも大切です。
- ・児童一人一人のよさが確実に位置付くように、授業、休み時間等の児童の動きに目を配り、がんばろうとする姿や新しい学級のために力を出そうとする姿など、児童のよさが認められるよう配慮します。また、帰りの会等において、教師が見付けた児童のよさを位置付けるとともに、その姿の背景にある価値を話すことも大切です。

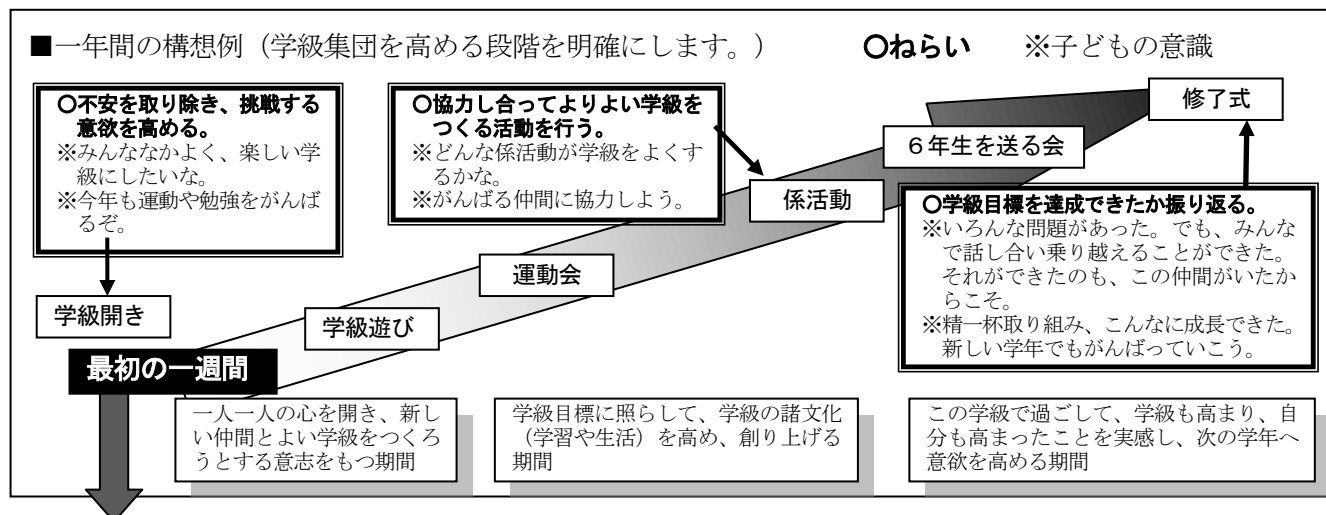
②意欲や価値を語る

- ・なぜそのようにするのかという意義や価値を常に「担任第一声」と結び付けながら語ることが大切です。
- ・指導に一貫性をもつことで、児童は納得して取り組むことができ、学級のルールを身に付けやすくなります。

③一年間の高まりを思い描いて

- ・その場しのぎの指導ではなく、学年の終末の姿や意識を明確にし、段階的にどのように高めていくのか、年間を通して継続して指導すべきことは何かを明確にします。
- ・この一週間で、どんなことをどのように児童に指導していくことが大切なのかをより明確にして指導に当たります。

3 願う姿の明確化と段階的な指導



■一週間の構想例（一年間の構想の中での一週間）

- ・願う姿を示し、なぜそのようにするとよいのかなど、意義や価値を語りながら指導します。
- ・児童が姿や行動で表す価値ある姿を見逃さず価値付けます。
- ・できている姿、できるように努力しようとする姿を様々な場面で価値付け、周囲の児童に広げていきます。
- ・できたら、さらに方向付けることで、自主的・自発的に行動する児童が育ちます。
- ・教師が率先して手本を示します。

願う姿（担任第一声）

（例）仲間を大切にし、精一杯取り組むことができる子

自分を解放できる仲間関係作り

- ・分からないときは分からないと意思表示します。
→ 分からないと言うことで学習が深まります。また、分からないと言うことが仲間のためにもなります。
- ・互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気を大切にします。（悪ふざけや嘲笑を許しません。）
→ 目立つ子ばかりではなく、コツコツと努力する子を価値付けます。結果ではなく、過程を大切にします。

自分の思いを伝える基盤作り

- ・聞き手に分かりやすい話し方を身に付けます。（聞き手の方を向いて、聞き手が分かりやすい速さや声の大きさで、手ぶりなどを加えて）
→ 聞き手がしっかりと聞けるようになったら、話し手は聞き手に伝わるように話すように指導します。
- ・ノートやプリント、予定黒板や当番の名前などには丁寧な字で、最後まで書ききらせます。
→ 後で読みやすいように丁寧に書きます。プリントは最後の行まで精一杯書くようにします。
- ・みんなに協力してほしいことや、こうするともっとよくなるという意見や考えを帰りの会等を利用して話し合うようにします。
→ 学級をよりよくする方法を生み出し、問題を解決する基盤となります。

仲間を大切にする基盤作り

- ・聞き方を身に付けさせます。（話し手の方を向いて、うなずくなど反応しながら、手に何も持たないで集中して）
→ まずは話をしっかりと聞くことが、相手を大切にするということです。
- ・時間を守らせます。
→ 時間を守ることは、仲間を大切にするにもなります。
- ・整理整頓をします。（机、いす、ロッカー、ぞうきん、赤白帽子等）
→ 持ち物を大切にするには、その持ち主を大切にするということです。
- ・仲間を呼び捨てにさせません。
→ 相手を大切にする基本です。
- ・一人一人が自分のやるべきことを精一杯やり抜かせます。
→ 自分の役割を果たすことは、仲間のためになります。

学級開きからの一週間で願う姿の基盤をつくりだす